平成 30 年５月１日

各位

会社名　　株式会社メニコン
代表者名　　代表執行役社長　田中　英成
（コード番号：7780　東証・名証第一部）
問合せ先　　執行役　経営統括本部長　太田　章徳
（TEL. 052-935-1646）

イヌ緑内障遺伝子検査開始に関するお知らせ

当社は、学校法人麻布獣医学園 麻布大学と特許「イヌの緑内障を診断する方法及びキット」（特許番号 6053681 号）を共同保有しております。この度、株式会社 VEQTA へ独占実施権を許諾し、平成 30 年５月１日（火）より同社によるイヌ緑内障遺伝子検査を開始することとなりましたのでお知らせいたします。

本件に関する詳細につきましては、別紙プレスリリースをご参照ください。

以上

2018年5月

イヌ緑内障遺伝子検査開始について

この度、学校法人麻布獣医学園 麻布大学と株式会社メニコンが共同保有する特許「イヌの緑内障を診断する方法及びキット」（特許番号 6053681 号）の独占実施権を株式会社 VEQTA（本社所在地：愛媛県新居浜市）へ許諾し、同社によるイヌ緑内障遺伝子検査を開始することとなりましたのでご案内申し上げます。

緑内障は眼球内の圧力（眼圧）が上昇して視覚障害をもたらす疾患で、犬種依存性の高い眼科疾患のひとつです。罹患率の高い犬種として、シバイヌ、シーズー、アメリカンコッカースパニエル、ミニチュアダックス、ビーグルなどが知られていますが、中でもシバイヌが症例数第１位、シーズーが第2位で、合わせて全犬種の約半数に相当します。また、眼科疾患で来院するシバイヌの43%は緑内障に罹患しているとの報告もあります。※1 このように犬種依存性の高い疾患は一般的に遺伝性疾患と考えられますが、緑内障についてもシバイヌ及びシーズーの感受性遺伝子としてSRBD1 が麻布大学とメニコンの共同研究で発見されました。※2

この度、この SRBD1 遺伝子の解析に基づく遺伝子検査を株式会社 VEQTA へ委託することになりました。この遺伝子検査でリスクホモ（アフェクテッド）と判定された個体はノンリスクホモ（クリア）の約3～10倍緑内障になりやすいとの判定が可能となります。

遺伝子検査を希望する場合、口腔粘膜を採取 VEQTA 社へ送付することにより、約2週間で解析結果が郵送されます。 緑内障発症リスクが高いと判定された場合は、定期的な動物病院への来院を勧めることで、なるべく発症リスクを低くする指導が可能となります。

VEQTA 社では、シバイヌ、シーズーの緑内障リスクを高い精度で予測できる遺伝子検査を2018年5月から開始予定で、同社では、その他、コリー眼、PRA など眼科疾患遺伝子検査も実施中です。

※1 印牧信行、麻布大学眼科に来院した緑内障症例の随伴症の分類、日本獣医師会雑誌 68(1) P55-58 2015

※2 Kanemaki N. et al, Dogs and Human Share a Common Susceptibility Gene SRBD1 for Glaucoma Risk, PLOS ONE 8(9), e74372, 2013